

シンポジウム

どうする？海のプラスチックごみ

ペットボトルなどのプラスチックごみが海岸に打ち寄せられるだけでなく、クジラや海鳥の体内から大量のプラスチックごみが出てくるといふ衝撃的な報道も相次ぎます。また、直径5ミリほどの「ペレット」やさらに小さなマイクロプラスチックの海洋汚染も深刻です。

「世界の塩ブランドの9割以上のサンプルからマイクロプラスチックが見つかった」「人間の糞便の中にマイクロプラスチックが存在する」といふ研究報告もあります。

汚染の実態を知り、何をすべきか考えましょう。



パラオ・ベリュリュエ島のビーチ。無数のゴミであふれ、砕けたプラスチックは、砂浜を覆っていた。(2018年6月撮影武本)

日時:12月1日(土)2時~4時半

場所:都立多摩図書館 セミナールーム

JR西国分寺駅南口から徒歩7分
国分寺市泉町2丁目2-26

報告1「海から見る地球」~プラスチックだらけの海~

武本匡弘さん (プロダイバー・日本サンゴ礁学会会員)

長年プロダイバーとして様々な海の世界を見て感じることは、元気な海よりも「死に向かっている海」の方が多いとのこと。

3年前から始めた「太平洋航海プロジェクト」では、自ら操船する帆船での海洋探査、父島~マーシャル諸島~カロリン諸島~ヤップ~パラオなど延べ23,000km、計180日間の航海で経験した気候変動の兆し、そしてゴミだらけの海。その実態を映像と共に紹介頂きます。

報告2「市民からの提言」

中井八千代さん (環境カウンセラー、容器包装の3Rを進める全国ネットワーク)

プラスチックによる海洋汚染を止めるために、ポイ捨てや使い捨ての生活を見直すことや企業に対して製造を抑制することを求め、行政に働きかけて制度をつくることについて具体的にお話し頂きます。

廃棄物資源循環学会市民会員

共著「子どもにできる地球に優しい24時間」(学陽書房)、「育てよう!廃棄物会計」(合同出版)他

※パネルディスカッションと質疑応答

報告のお二人と参加者が共に今後の展望について話しあいます。

参加費:800円(資料代含む)



主催:生活クラブ運動グループ 国分寺地域協議会
連絡先:042-328-1864(国分寺・生活者ネットワーク)